

【平和宣言】

私たちはこの春、修学旅行で広島を訪れました。

「戦争の歴史や平和への願いを学び、人権について考えを深める」。これを修学旅行の目的の1つとして掲げ、平和学習に取り組みました。

私たちは事前に「この世界の片隅に」と言う映画を視聴しました。この作品の舞台は第二次世界大戦中の広島です。主人公の若い女性の日常が描かれた映画です。主人公やその家族の微笑ましい日常とは裏腹に、食料不足など見るみる生活が変わっていきます。中でも主人公の家族が、不発弾に巻き込まれ、目の前で命を落とすシーンには心が締め付けられる思いがしました。

「食料不足」や「不発弾」、「空襲」は、今の日本に住む私たちにとって、聞きなじみのない言葉、いわばこれらは「非日常」です。

しかし、戦時中の日本においてはこれらが「日常」で、恐ろしいことに多くの尊い命が犠牲になったのです。平和は当たり前のものでは決してなく、命や人権の大切さを強く意識し続けることによって初めて守り続けていけるものだと改めて気づきました。

そんな思いを持ち、いよいよ修学旅行当日を迎える。広島の地で平和セレモニーを行い、平和記念資料館を見学しました。そして、ガイドの方のお話を聞きながら平和記念公園の慰靈碑を巡りました。

そこで「戦争に巻き込まれる」とはどういうことなのかを本当の意味で、初めて知ることができたように思います。今まで自分が知っていると思っていた

事は、戦争のほんの一部だったことに気づかされました。「その当時」、「その場所」で生活していた方から見た戦争の姿を知って衝撃を受けました。展示されていていたものは、どれも「これ以上見ていいられない」と思うほどに悲惨でした。もう二度と戦争を起こしてはならないと思いました。

人の死が身近でない「現在」に住む私たちにとって、「生活」とは当たり前に過ぎていくものですが、戦争はその当たり前を根底から全て覆すものだと改めて気づかされました。このような悲惨な過去が人間によって引き起こされたと言うことを、私たちは心に刻み、平和な日常について考えるべきだと強く感じました。

そして、自分たちだけでなく、世界の様々な人たちにも平和な日常が訪れるように、私たちができることとして、過去を風化させず、平和学習で学んだことを発信し、未来へ平和をつなぐという役割を果たしていきたいと思います。

最後に、広島の平和セレモニーで3年生全員の祈りとともに読み上げた平和宣言文をご紹介し、私たちの発表を終えます。

<平和宣言文>

「平和」。この言葉は私達にとって、あまりにも当たり前すぎて普段あまり意識することはありません。しかし、私達は、平和の尊さに気づくべきです。今、この瞬間も、世界の中には、戦火におびえ、苦しんでいる人達がいます。同じ人間同士が、互いに傷つけあい苦しむ戦争は、とても恐ろしく悲しいことです。

私達が、世界から戦争をなくすためにできることは、一人一人が互いに思いやる心を持つことです。一人一人が互いの気持ちを考え、思いやり、そして優しい心を持つことで、戦争がなくなり、世界が平和になるはずです。

また、私達は、約80年前に起こった戦争を単なる歴史ととらえるのではなく、戦争を無くすために、次世代に戦争の悲惨さを伝えていき、人の命の尊さについて考えていく必要があります。そして、誰も苦しまず、平和で笑顔あふれる世界を作るよう、また、その平和な世界を永久に続けることができるようすることをここに宣言いたします。

大津市立北大路中学校3年生 生徒代表